

私たちの力で原発を止めよう!

2012年3月24日、「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク(以下、阻止ネット)主催による「六ヶ所再処理工場廃止・脱原発社会の実現に向けて」3・11から考える」集会在東京で開催され、グリーンコープからも23人が参加しました。

その後、日比谷公園では、さようなら原発1000万人アクション実行委員会主催の「太陽と風、大地、自然の恵みをエネルギーに!再稼働を許すな!さようなら原発1000万人アクション3/24」が行われました。冷たい雨が降る野外での集会でしたが、6000人も市民が全国から集まりました。集会後は雨も止み、脱原発をアピールしながらパレードしました。

二つの集会とパレードのようすを報告します。



阻止ネット主催

六ヶ所再処理工場廃止・脱原発社会の実現に向けて...3・11から考える

3・11の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故から1年が経ちました。事故原因さえきちんと説明されず、その処理も進んでいないにもかかわらず、政府と電力会社は原発再稼働への歩みを止めようとします。この集会では、エネルギー政策の視点から脱原発に向かうための講演と阻止ネットの今後の活動提起がありました。豊かな自然をこれ以上放射能で汚染させないように、後世に負の遺産を残さないように、そして生命と食べものを守っていくために、原発再稼働を絶対にやめさせ、六ヶ所再処理工場の試験再開も阻止しなければなりません。そのため行動していく必要性を、参加者は改めて確認しました。

エネルギー政策の視点での脱原発への道すじ



講演 飯田 哲也さん (環境エネルギー政策研究所所長)

電力需給の問題と原発再稼働は切り離して考えないといけない。そもそも東京

電力の原子力発電所の事故は収束していないのに、再稼働が議論されるといってもない状況。他の原発が同じような事故を起こしたら日本は破滅だという危機感を持つべきだ。政府の事故調査委員会が最終報告を出していないので、それが出てから原因と対処をしっかりと考えるのが当たり前。今年の夏、電力需給が一番厳しいのは関西電力だが、原発以外の発電所の発電能力を積み上げれば絶対に足る。隣接する電力会社から融通することもできる。政府は全部の原発を完全に止めて、安全性の検証、安全規制の作り直し、事故原因の究明を徹底的にやることを提案すべきである。ドイツは再生可能エネルギーの技術の進歩で10年後に脱原発の見通しが立った。10年前のドイツと今の日本は状況が似ている。自然エネルギーは技術の進歩でコストも下がり、今後ますます伸びていくので、日本でも脱原発ができないことはない。まずは国家的な嘘を国が認めることから始め、原発の使用済み燃料を適切に管理・処理していくこと、脱原発と電力市場改革を政治主導で行うことが必要だ。

阻止ネットの今後の活動提起

「夏には大停電が起こる、経済に打撃を与える」という脅しに屈せず、原発稼働ゼロのままこの夏を乗り切り、脱原発社会へ移行できることを証明しましょう。国の核燃料サイクル政策を転換させるのは、今しかないという局面になっています。いまや脱原発は少数派ではなく多数派です。しかし、それが力になっていません。それをどうやって形にするかが問われています。



活動提起をする あいコープみやぎ専務理事 多々良哲さん

2012年度の活動提起

- 1、さようなら原発 1000万人アクションに参加しよう**
 - ・1000万人署名を引き続き取り組み、1000万人を達成しよう。
 - ・7月16日、さようなら原発 10万人集会に参加しよう。
- 2、“市民のロビー活動”を全国で展開しよう**
 - ・地元の自治体議員との意見交換の場をもつなど働きかけを強めよう。脱原発の意見書(請願、陳情)採択、議会決議の採択などを地方議会へ働きかけよう。
 - ・国会議員との意見交換の場をもつなど働きかけを強めよう。地元選出議員の事務所への電話、ファックス、メール、ハガキ作戦を取り組もう。
 - ・パブリックコメントを出そう。総合資源エネルギー調査会基本問題委員会(新しいエネルギー基本計画について)原子力委員会新大綱策定会議(今後の我が国の原子力政策の在り方について)
- 3、六ヶ所再処理工場の廃止を実現しよう**
 - ・国のエネルギー基本計画の策定、六ヶ所再処理工場の完工予定など大きな山場を迎える今秋に、おおぜいで集まって、阻止ネットの集会を開催しよう。
- 4、生産者と、被災地と連帯しよう**
 - ・生産者と交流、連帯して、脱原発、核燃料サイクル廃止へ共に進もう。
 - ・福島の声に耳を傾け、福島に寄り添っていこう。
- 5、脱原発・エネルギー政策の転換を目指す他団体、様々な市民グループと情報を共有し、連携して運動を進めていこう**

太陽と風、大地、自然の恵みをエネルギーに! 再稼働を許すな! さようなら原発1000万人アクション 3/24

集会にはさまざまな市民団体・生産者・政治団体・労働組合・一般市民などが、それぞれに脱原発を訴えるのぼりやプラカードなどを持って集まりました。集会の呼びかけ人である鎌田慧さん、澤地久枝さん、賛同人の辛淑玉さんからスピーチがありました。澤地さんは、「命を金に代えることはできません。絶対に原発は私たちの力で止める」ということを、私も思い、みなさんも思い、行動する以外に道がないです。私たちが希望をつくっていくんです」と呼びかけました。また、被災地福島から3、11県民実行委員会の大内良勝さんが「福島の実態は、1年経っても何ひとつ変わっていません。福島から逃げている子どもたちは2万人ですが、逃げられない子どもも2万人以上います。その子どもたちのために、



会場の日比谷野外音楽堂には、冷たい雨にもかかわらず、6000人も市民が集まった



「原発はいらない!」とアピールしながらパレードするグリーンコープ組合員

この1000万人署名をぜひ成功させたいです」とアピールをしました。柏崎刈羽原発を抱える新潟県などからもアピールがあり、呼びかけ人の落合恵子さんが「原発事故は、福島の人はもちろん、日本中、世界中の人々を恐怖に陥れ、未来の子どもたちにも危険を残してしまつたのです。私たちは、全ての核を捨てることと全ての原発を廃炉に持つていくことをここに誓いましょう」とまとめを行いました。集会後は、東京電力本社前を含む2つのコースに分かれてパレードが行われました。参加者はプラカードなどを掲げ、「いのちが大事」「子どもたちを守ろう」と道行く人たちに呼びかけました。パレードは約2時間ほど続き、市民の脱原発への思いを社会に強くアピールしました。